

この本を読むみなさんへ

佐賀県は昔、長崎県の本土とともに一つの国を成し「肥前国」と呼ばれていました。佐賀県のように、一つの国の一部だけで都道府県を構成している例は、ほかに首都東京がある「武蔵の国」だけです。

いったい、なぜなのでしょう。

それは、私たちのふるさと佐賀県が特別な存在だからです。
日本の歴史上、この地域がとても大きな役割を果たしてきたから。
そして、ここに住む人たちが佐賀県を心から愛していたから。

この地域は、地理的に大陸に近いことから海外からの人の出入りが多く、古くから最先端の文化の発信地でした。幕末にはその力が開花し、反射炉や三重津海軍所をはじめとした最新の科学技術は明治維新実現の原動力となり、その後の国づくりで活躍する人材を数多く輩出しました。

そうした中で、地域を愛し誇りに思う気持ちは高まり、長崎県の一部となっていた明治 16 年、住民による懸命の復県運動の末、今の佐賀県は誕生したのです。

また、佐賀県では「くんち」や「祭り」、「三夜待ち」^{※1}など地域の人々の絆の強さもあり互いに助け合いながら生活していく風土があります。これら佐賀県の「人」を大切にしてきた歴史や風土は、県民一人ひとりの「想い」や「考え」に根付いており、誇りを持って次世代に繋げていくことが大切です。

さらに、皆さんが普段見慣れている、あるいはそこにあることが当たり前だと思っている佐賀県の「自然」や「食」、「文化・歴史」。そうしたもので、実は、日本だけでなく世界にも自慢できるものがたくさんあります。きっと、その中には、あなたの身近にあって、小学校や中学校での学びの中で、自分にとって親しみ、愛着があるものになっているものもあることでしょう。

現在高校生のあなたには、これから改めて佐賀県について学び、
**「人」を大切にしてきた歴史や風土をたどることで、
佐賀県のことをこれまで以上に誇りに思ってもらいたい**と思います。

この本を読むあなたたちが起点になって、佐賀県の素晴らしさがいつまでも語り継がれることを心から願っています。

佐賀県教育委員会

※1 神のそばに居て共に夜を明かすこと。
今では、仲間同士が定期的集まり、飲食する
親睦会的な機会となっている。